

令和6年度 東久留米市立 第一小学校

学校評価報告書

学校教育目標	心温かく 光り輝け 稲穂のように ○自ら考え、表現する児童の育成 ○心優しく、思いやりのある児童の育成 ○自らの健康について考え、実践する児童の育成	教育 ビ ジ ョ ン	【目指す学校像】	・児童が多様性を尊重しながら、自らのよさを発揮し、主体的、創造的に活動する学校 ・児童が安心して、学習したり、生活したりすることができる学校 ・教職員が主体的に課題解決し、危機管理意識をもちながら組織的に教育活動を展開できる学校 ・家庭・地域社会との相互理解・協力を図り、情報発信できる開かれた学校
			【目指す児童・生徒像】	・自ら考え、表現する児童 ・心優しく、思いやりのある児童 ・自らの健康について考え、実践する児童
			【目指す教師像】	主体的に課題解決し、危機管理意識をもちながら組織的に教育活動を展開できる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	・校内研究では体育科を研究教科として、『「できると楽しい！を実感し、進んで運動する児童の育成」をテーマに取り組み、研究授業やOJTを充実させたことで、教員の授業力が向上した。 ・授業、朝学習、家庭学習等で漢字の繰り返し指導を継続的に行ったことで、漢字テストで正答率80%以上を取る学年が8割だった。全国学力学習状況調査及び市学習定着度調査では、全国や市の平均を下回る教科が多かった。			

東久留米市第3次教育振興基本計画				中期経営目標 (令和8年度までの3年間)	短期経営目標 (1年間)	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」			取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント	
1	I 健全育成	規範意識や他人への思いやりなど豊かな心を育む教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	人との関わり合いを大切にしながら、児童が自信とやる気をもって未来を切り拓くために、自分を大切にするとともに、相手を認め、尊重する態度を育成する。	積極的に児童を具体的な姿でほめ、認める態度を示すことができる。	①児童の良い点や頑張ったことをほめていたか。 ②進んで活動することを通して達成感をもたせたか。	満足・おおむね満足が A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	A	A	B	・子供同士、仲良く生活している姿がたくさん見られてとてもよかった。また、子供同士のトラブルが起こることは仕方ないが、ケガ等の事故に繋がらないように配慮して欲しい。 ・校外学習、社会科見学等、様々な体験活動に取り組み、子供たちを大事に教育しているのが伝わってきた。	・全教育活動を通じて児童の豊かな心の育成に努める。日々の授業、児童との触れ合いをとおして、相手の立場に立った思考を基に、自発的な挨拶、規範意識、思いやりの心の育成を図る。 ・いじめ、不登校、生活指導上の問題行動に対して外部機関との連携を図る。 ・情報教育と関連させながらSNSルールや情報モラルについて指導を行う。 ・hyper-GU(4年)を活用して客観的・多面的な児童理解を行い、個に応じた指導を行う。
2	I 健全育成	いじめ問題への対応	規範意識と豊かな人間関係を育む教育	児童がいじめへの認識を深め、いじめに関する意識を変え、いじめ問題を主体的に解決しようとする態度を身に付けさせる。	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」とすべての児童が明言できる。	①安心して話したり相談したりできる児童との人間関係づくりができたか。 ②一小「SNS正しい知識と情報モラル」を基に、情報モラル教育ができたか。	満足・おおむね満足が A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	A	A	A	・校内いじめ対策防止委員会を中心として、各担任が学期に1回のアンケートや児童一人一人への聞き取りなどを組織的にを行い、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・校内いじめ防止基本方針を年度当初の保護者会で周知したり、HPIに掲載したりして、保護者や地域住民と連携しながらいじめの撲滅に向けて取り組んでいく。 ・生活指導夕会を活用して組織的・計画的に対応を協議し、いじめの早期解決を図る。 ・朝のタブレットタイムを活用して情報モラルについては継続的に指導していく。	
3	I 健全育成	生涯にわたって育む健やかな体づくり	体力向上に関する指導の充実	健全な心の発達・成長とともに健やかな体を育むために、運動に親しむ習慣や意欲、体力づくりへの意識を向上させる。	運動が好きという児童を増やす。そのために、適切な生活習慣や食習慣の定着を図る。	①外遊びの推奨に取り組んだか。 ②マラソン月間、なわとび月間などにより運動の楽しさを味わわせられたか。	満足・おおむね満足が A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	A	A	A	・3年間の体育科の校内研究で得られた成果を日々の授業で生かし、児童にとって「できる」と楽しい！」と実感できるような授業を工夫していく。特に、タブレット端末を活用して、児童が自らの動きを振り返ったり、教師が動画記録を基に指導改善を行ったりして、児童の技能や学習意欲を高めていく。 ・マラソン月間、なわとび月間などに児童が意欲的に取り組めるように、運営の仕方を工夫する。 ・養護教諭、SC、外部機関との連携した保健指導の充実を図る。	
4	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	授業では、めあてを確実に理解させ、対話的活動を取り入れながら、めあての達成状況を振り返らせることで学力向上を図る。	朝学習、家庭学習では、漢字の繰り返し学習を中心に行い、基礎・基本の定着を図る。	①めあてを理解させ、対話的な活動を取り入れながら、めあてを振り返る授業を行ったか。 ②朝学習、家庭学習では、繰り返し指導を行い、学力の向上は図れたか。	満足・おおむね満足が A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	A	A	A	・授業では、めあてを十分に理解させ学習意欲を高めるとともに、対話的な活動、体験活動、操作活動を積極的に取り入れて深い学びにつなげる。 ・朝のモジュール学習では、漢字の繰り返し学習を行い、基礎基本の定着を図る。タブレットタイムでタブレット端末を活用させ、基礎・基本の確実な定着を図る。 ・高学年及び中学年に教科担任制を導入し、教師の専門性を生かし、複数の教師の目で児童を見取り、よさを伸ばし、確かな学力を育成していく。	
5	II 学力向上	確かな学力の育成	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	タブレット端末を活用して、調べ学習やドリル学習などの個別最適化された学習を推進する。	全学級で、タブレット端末を活用した授業展開が3割程度できるようにする。	①いずれかの教科でタブレット端末を活用した授業展開ができたか。 ②ICT機器を活用して児童の思考力・表現力・判断力の育成を図ることができたか。	満足・おおむね満足が A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:41%未満	A	B	A	・授業では、実物投影機やタブレット端末を活用して、児童が主体的に発表や説明ができるように指導方法を工夫していく。 ・週1回のタブレットタイムで児童の技能及び学習意欲を高め、校内ICT委員会を中心にICT支援員を活用して教材開発や授業支援をすすめ、確かな学力を育成していく。 ・家庭学習でタブレット端末を活用させ、様々なアプリの活用を通して主体的な学びにつなげていく。	
6	II 学力向上	確かな学力の育成	英語教育と国際理解教育の推進	英語を使つてのコミュニケーションに慣れ、英語を使つてすすんで表現しようとする力を培う。	年間計画に即して、高学年70時間の外国語、中学年35時間の外国語活動を規定通り実施し、英語を使つたコミュニケーションに親しむ。	①年間指導計画に即して、ALTの力を借りながら担任がメインティーチャーとして授業を進めることができたか。	満足・おおむね満足が A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	B	B	A	・児童の学習状況を見ながら指導計画に即して毎時間の指導方法を工夫していく。 ・ALTを効果的に活用して音声を中心に基本的な表現に慣れ親しませコミュニケーション能力を育成する。 ・「使える英語」を習得させる実践的な授業を推進し、国際社会において活躍できる人材の育成を図る。また、デジタル教材を活用しながら、チャンスをしたり、外国の文化や特色を理解させたりして、外国語に対して興味を高めていく。	
7	II 学力向上	確かな学力の育成	教員の授業改善、指導力の向上の推進	教員一人一人が、主体的・対話的で深い学びのある活動を取り入れた授業力を身に付け、児童にとって、わかる・できる授業を目指す。	教員一人一人が、ねらいや学習内容を明確にした「わかる・できる授業」を日次的に行う。	①ねらいや学習内容を明確にした「わかる・できる授業」を実施することができたか。 ②学期に1回以上、自分の授業を他の教員に公開し、助言を求めたか。	満足・おおむね満足が A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	A	A	A	・今後も子供たちのために教育活動に取り組んでみたい。	
8	II 学力向上	日本人としての自覚と豊かな国際感覚をもつ人材の育成	伝統と文化の理解の推進	日本人としての自覚と誇りを持ち、世界の中の日本の役割について興味・関心を持ち主体的に学ぶ態度を養う。	学校2020レガシーとして、日本の伝統文化に関する活動を実施し、日本人としての自覚と誇りを醸成する。	①日本の伝統文化に関する学習を各学年の発達段階に合わせて、年間2回以上実施できたか。	満足・おおむね満足が A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	A	B	A	・地域の行事、音楽(琴に親しむ)等日本の伝統文化の伝承に関わる取組を行うとともに、地域・保護者に向けてHP、お便り等で発信していく。 ・和楽器の演奏者を招いた鑑賞の授業を行ったり、運動会で東久留米音頭を踊ったり工夫していく。 ・笑顔と学びのプロジェクトを活用して、幅広く日本の伝統文化に触れさせたい。また、昔遊び、百人一首などの伝統遊びにも取り組ませたい。	
9	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	地域や外部人材を生かした体験活動の充実	地域の教育資源を活用しながら、教科横断的な学習に取り組み、地域を大切にすることを育むとともに、主体的・対話的で深い学びにつなげる。	地域の教育資源や外部人材を活用した教科横断的な授業を積極的に実施する。	①地域の教育資源や外部人材を活用した教科横断的な授業を年間2回以上実施できたか。	満足・おおむね満足が A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	A	A	B	・青少年協やPTAと「花いっぱい運動」をしたり、落合川の学習を通して交流したり、榛名の久留馬小5年生とzoomを活用して交流したりして、地域等の外部人材を積極的に活用していく。 ・地域の団体による理科実験教室や禁煙キャラバンや学校薬剤師によるたばこや薬の授業も継続していく。 ・市や都の事業を活用し、外部人材による特別授業を実施し、生き方を学ぶ機会を設け、自分自身の進路について考えさせ、社会的・職業的自立に向けた基盤となるキャリア教育の充実を図る。	
10	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	発達特性に応じた指導及び特別支援教室の指導の充実を図る。	特別支援教育コーディネーター、心理士、スクールカウンセラー等と連携を図りながら、配慮を要する児童への指導を充実させる。	①特支校内委員会を中心に、全校体制で支援に取り組んだか。 ②支援計画・支援ファイルを活用し個々に合った指導ができたか。	満足・おおむね満足が A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	A	A	B	・特別支援教育コーディネーター、ボプラ教室の巡回指導教員、担任を中心に、児童一人一人の特性や困り感に寄り添った特別支援教育の在り方について、議論したり情報共有したりしていく。 ・特別支援教室拠点校としての特色を生かし、巡回指導教員、スクールカウンセラーの専門性を活用した児童の見取りと通常学級への理解教育を進めていく。 ・スクールソーシャルワーカー、市の相談室、巡回心理士、子供支援センター等の外部機関も活用した総合的な相談体制の充実を図る。	